

B 111 洗剤による予浸効果について
文教大教育 西出伸子 ○関口典子

目的 カーボンブラック汚染布（C汚染布）を石けんを用いた場合に予浸を行うと洗淨効率⁰が低下すると報告されて以来、予浸はまったく誤っていると言われていた。しかし、家庭では予浸が行われている。近年、洗剤の種類も多く、中には予浸の効果をうたっているものも市販されている。そこで、C汚染布とえり汚垢布について3種類の合成洗剤と石けんを用いて予浸の効果の比較検討を行ったので報告する。

方法 洗剤は、JISK3371の指標洗剤（A洗剤）、市販酵素配合合成洗剤（T洗剤）、市販液体合成洗剤（J洗剤）、市販粉石けんを規定濃度で用いた。予浸時間は、1・3・7・15時間（えり汚垢布はT洗剤のみ）。予浸方法は、再汚染布用白綿布、浴比調整用白綿布と共にビーカー内に30℃で規定濃度の洗淨液中に吊り下げ、その後直ちに洗淨に供した。洗淨方法は、JISK3371に準じた。

結果 C汚染布の場合は、A・T洗剤は7～15時間で、J洗剤・石けんは3～15時間で予浸効果が認められた。えり汚垢布の予浸効果は、A洗剤は予浸3時間で効果が認められたが7時間ではむしろ低下すると評価された。その原因は、7時間処理によるけい光増白の顕著な効果によるものと思われる。T洗剤においては予浸効果もけい光増白効果も7時間をほぼ限界に達した。J洗剤と石けんは予浸効果が認められなかった。以上の結果から汚れの種類と洗剤の種類と予浸時間によって有効なことかわかった。